



レインボー支援センターだより

岩手県立盛岡青松支援学校
平成26年10月1日発行



演題「生徒に伝わる言葉のかけ方」

～現代の生徒像を踏まえた “王道” アプローチのお話し

レインボー支援センターでは、生活や学習の悩み、お友達との関係など発達に関わる悩みをもつ方々の相談・支援活動を行っております。

今回は、私たちは、講演会や研修で学んだものの中から、うなずいたり、再確認できたりと、明日からでも取り入れられるようなものを紹介いたします。



《講演会の講師紹介》

曾山 和彦（そやま かずひこ）

現職：名城大学大学院・大学・学校づくり研究科及び教職センター准教授

《主な著書》

『時々“オニの心”が出る子どもにアプローチ 学校がするソーシャルスキルトレーニング』

『教室でできる特別支援教育 子どもに学んだ“王道”ステップ ワン・ツースリー』

『気になる子どもが溶け込む授業のしかけ クラスみんなのための特別支援教育』

『特別支援教育に生かせるカウンセリング』

大人も？

現代の生徒像 教師や友人と向き合おうとしない生徒たち

大切に思う人の範囲が狭く、自分は大切にしてほしいが、相手はどうでもいい。

心の中は、「自分」がいっぱい。「他者」はわずか。

自分を大切にできなければ、他者を思うことはできない！

心の中に「自分」もわずか。



他者を思いやれるようになるには・・・

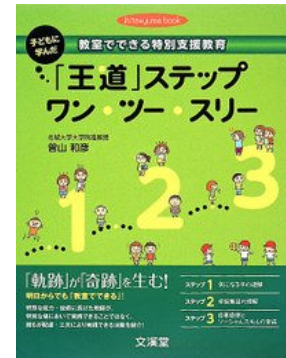
自尊感情を高める

- ・社会的な資質、能力、態度を養う
- ・自己存在感:自己指導能力の育成
- ・共感的人間関係=人間関係づくり

人は人の中でしか育たない

「教室でできる特別支援教育」

参考テキスト 曾山 和彦先生著



○ 生徒を育む基本方策

- ・自分にOKと言えなければ、他者には尚更OKとは言えない。
- ・自分を大切にできなければ、他者は尚更大切にできない！
- ・他者とかかわる技術・コツがなければ、他者を大切にできない！

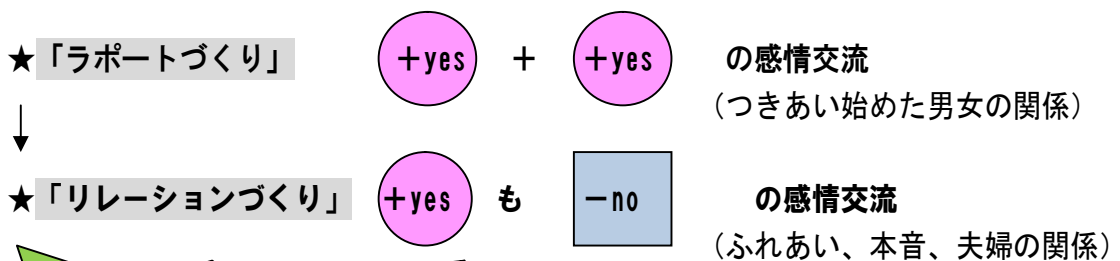
現代、地域、家庭の力が弱い

自尊感情を育む

ソーシャルスキルを育む

人付き合いのコツ、技を伝える

○ 関係づくりの段階の定義 (國分康孝先生による)



関係づくりのお薦め演習

★先生は遊ぶがごとく → 演習：アドジャン → エンカウンター

例 : 対応として、うなずける内容
ねらい: 自他理解

成果: 自分と出会う (自己理解)
他者と出会う (他者理解)
人生 (生き方と向き合う)

ひとがやる気を出すのは、偶然ではない。

(やる気を出す一般法則と原理) 長瀬 莊一氏

希望の法則

- ① 「がんばればうまくいく」と、思うと **やる気が出る!**
- ② 「充分やれそう」とおもうと
- ③ 「何をどうすればいいか」がわかると

充実の法則

- ① 「面白い、自分は成長している」と思うと **やる気が出るよ!**
- ② 「自分で決めたことだから」と思うと
- ③ 「自分は期待されている」と思うと

関係の法則

- ① 人間関係に「安心感」がもてると **やる気が出るよ!**
- ② 仲間に「関心」が持たれていると思うと
- ③ 仲間と「一体感」を感じると

子どもたちにとって自己肯定感、未来に希望を持ち自立を目指すために重要な感情です。



自己肯定感、自分に自信が持てる経験の積み重ねが大切で、自尊感情を高められる経験を少しでも多くできる機会を生活環境を通して形成していける支援ができればと考えます。共に育ち、共に生きていける、共育共生の環境づくりに努めていきたいです。



